

# SGH 東京研修



11月12日(土)、13日(金)SGH 東京研修に行ってきました。

初日は「よこはま動物園ズーラシア」、二日目はスカイツリー、国連大学で研修を行いました。

## 1日目～11月12日(土)～

### いざ横浜へ

SGH 東京研修には1年生国際文化科、8名が参加しました。

6：50新大阪発のぞみに乗車する為、4時起きスタートになりましたが、全員遅刻する事なく、秋晴れの中新幹線で新横浜へ向かいました。

新横浜からは、バスで「よこはま動物園ズーラシア」(以下「ズーラシア」)に移動です。



[出発の様子(新大阪にて)]

### ズーラシアのCSR

ズーラシアには、約70種を超える動物たちが、「生命の共生・自然との調和」のコンセプトに基づき、それぞれの生息環境に近い形で展示されています。

レジャー施設として認識されることの多い動物園ですが、実際には次のような社会的役割を担っています。

1. 自然保護の場：希少な野生動物の保護と繁殖を行う。
2. 調査研究の場：動物の生態や繁殖、動物園の諸活動に関する調査・研究を行う。
3. 社会教育の場：動物や自然環境について、関心を持つきっかけを社会に提供する。

ズーラシアでは、現在ウガンダより3名の研修生を受け入れており、キリン・ライオンなどの動物の保護・繁殖に関する研修を行っています。

ズーラシアでは、職員の方、ウガンダ研修員の方より、野生動物の保護の現実について、研修を行っていただきました。



[キリンの生態についてバックヤードで学ぶ]

## キリンのバックヤードへ

ズーラシアに到着後、職員の方、ウガンダの研修生と合流し、キリンのバックヤードへ。

動物であるキリンの飼育スペースには、2階建ての高さの個室や、餌を与えるクレーンなど様々な工夫が加えられていました。

ここ数年、日本国内のキリンの繁殖は止まっており、国内のキリンの頭数は減少傾向にあるそうです。一方、海外からの輸入は2～3週間の検疫が必要など、簡単ではなく国内で計画的に繁殖させていかなければならないそうです。

## ライオンは害獣？

ウガンダの方よりライオンの生態について講義を頂きました。

アフリカに広く分布するライオンは、人間の乱獲や気候変動により絶滅が心配されています。

現在ウガンダでは、ライオンは家畜を荒らす「害獣」として、畜産を営む人々に次々駆除されているそうです。

「動物の保護」と「住民の経済」が引き起こす葛藤を解決するのは難しい課題です。



[ウガンダ研修生よりライオンの生態に関する講義]



[ウガンダ研修生による生態系ゲーム]

## 生態系ゲーム

ウガンダ研修生指導のもと、ライオンの生態系についてゲーム形式で学びました。

野生のライオンを守ることは、食物連鎖でつながる多くの種を守ることになります。

生徒それぞれが、ライオン、羚羊、うさぎ、ネズミ、ヒト、植物、バクテリア、太陽になりどんな風に、それぞれの種がつながっているのか、実際に紐でつないでいながら、学んでいきました。

## 中華街で夕食、赤坂へ

研修を終え、各自ズーラシア園内を自由に見学したのち、中華街にて夕食をとりました。

この日は、夕食後に電車で東京に向かい、国会議事堂を見学したのち、赤坂の宿に入りました。

早朝からの研修でしたが、夜遅くまでレポート作成に勤しむ姿が見られました。



[中華街の料理店にて]

## スカイツリーで国際交流

2日目の午前中は押上のスカイツリーへ。多くの外国人観光客が訪れるソラマチで、生徒が外国人観光客にインタビュー調査を行いました。

最初は戸惑い、緊張でうまく声をかけられなかった生徒たちも、段々と慣れてきて、多くの観光客に笑顔で声をかけており、1時間で10人以上に声をかける生徒もいました。

生徒たちは「文法が間違っているけど伝わると、感想を話してくれました。



[インタビューの様子]



[スカイツリーにて]



[国連大学前]



[国連大学内にて]

## 高校生模擬国連大会見学

午後は国連大学で行われた第十回全日本模擬国連大会の見学を行いました。

模擬国連大会では、約80校の代表高生徒が、世界の国々の大使として、国連総会を模して世界が抱える様々な課題の解決を考えます。

第十回となる今大会では、「サイバー空間における国際的なルールづくり」が議題となりました。各国の大使となった高校生が提案に賛同する国を集め、動議を提出し、宣言や条約の採択のため、議論を行いました。この会議のほとんどは、英語によって進められました。見学した泉北生にとって、代表校の英語力や社会科学の知識は大きな刺激になりました。

この日は、表参道・明治神宮を見学し、品川から大阪に向かいます。新幹線に座って一息ついたら、合計A4、7枚に渡るレポートが最後の課題となりました。